※消滅する前に鑑賞ください。

関連イベント

開幕記念 作家鼎談

日　時　2026年4月25日(土) 14:00–15:30 (開場13:30)
登壇者　森村泰昌、ヤノベケンジ、やなぎみわ
会　場　大阪中之島美術館　1階ホール
定　員　150名 (先着順、事前申込不要)
参加費　無料 ＊ただし本展観覧券 (利用後の半券可) が必要

ピクセルアート：BAN8KU / thePIXEL

アートゲーム SHIP'S CATの大冒険 公開記念イベント

イベントページはこちら

日　時　2026年5月2日(土) 3部構成、詳細はイベントページをご確認ください。
登壇者　ヤノベケンジほか
会　場　大阪中之島美術館　1階ホール
定　員　150名 (先着順、事前申込不要)
参加費　無料 ＊ただし本展観覧券 (利用後の半券可) が必要

photo by Yutaro Yamaguchi

舞台公演「黄泉平坂(よもつひらさか) ～排斥と遊戯～」

チケット購入はこちら

作演出　やなぎみわ
日　時　2026年5月28日(木) 17:30開演
2026年5月29日(金) 14:00開演／17:30開演*
2026年5月30日(土) 11:00開演／17:30開演*
＊公演時間：60分 ＊開場は開演の30分前
＊5月29日、30日の17:30開演の回はアフタートークを実施します。＊未就学児はご入場いただけません。
会　場　大阪中之島美術館　1階ホール
定　員　各回140名
参加費　4,000円 (税込、前売・当日)
販売場所　ローソンチケット (Lコード：52954)

イメージ図

猫之島美術館 — 宇宙猫アトリエ 臨時公開記録

日　時　2026年4月28日(火)–2026年5月7日(木)
会　場　大阪中之島美術館 2階芝生広場
詳細は本展公式サイトをご覧ください

森村泰昌連続レクチャー「驚異」のための美術教室 (全4回)

登壇者　森村泰昌
時　間　各回 14:00-15:00
会　場　大阪中之島美術館 1階ワークショップルーム
定　員　40名 (事前申込制)
参加費　無料 ＊ただし本展観覧券 (利用後の半券可) が必要

第1回 2026年6月6日(土)　なぜこの「三人の展覧会」なのか、モリムラ目線で考える。
第2回 2026年6月20日(土)　ミステリー仕掛けの「M式大阪八景」
第3回 2026年6月27日(土)　木谷千種「浄瑠璃船」をテーマにしたワケ
第4回 2026年7月4日(土)　消滅美術館には、三島由紀夫がよく似合う?

その他のイベントは決定次第、本展公式サイトにて公開いたします。そちらをご確認ください。

関連展示

モリムラ@ミュージアム 第12回企画展
森村泰昌 BEKKAN
別館―もうひとつの「驚異の部屋の私たち」
会　期　2026年4月24日(金)–7月20日(月・祝)
会　場　モリムラ@ミュージアム

ヤノベケンジ「驚異の部屋 -アネックス-」
会　期　2026年5月6日(水)–5月11日(月)
会　場　阪急うめだ本店 9階 阪急うめだギャラリー
＊4月下旬公開予定

関連展示の観覧料、開場時間など詳細は各会場のWEBサイトをご確認ください。

観覧料

一般1,900円(団体1,700円) 高大生1,300円(団体1,100円) 小中生500円(団体300円)
[主なチケット販売場所] 大阪中之島美術館チケットサイト／ローソンチケット (Lコード:51719)
＊税込価格。＊団体料金は20名以上。団体鑑賞をご希望される場合は事前に大阪中之島美術館公式ホームページからお申込ください。＊学校団体の場合はご来場の4週間前までに大阪中之島美術館公式ホームページ学校団体見学のご案内からお申込ください。＊障がい者手帳などをお持ちの方(介護者1名を含む)は当日料金の半額(要証明)。ご来館当日、2階のチケットカウンターにてご購入ください(事前予約不要)。
＊本展は、大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金が必要です。＊事前予約制ではありません。展示室内が混雑した場合は、入場を規制する場合があります。＊災害などにより臨時休館する場合があります。

アクセス情報

[電車]
京阪：中之島線 渡辺橋駅 (2番出口) より南西へ徒歩約5分
Osaka Metro：四つ橋線 肥後橋駅 (4番出口) より西へ徒歩約10分
JR：大阪環状線 福島駅／東西線 新福島駅 (2番出口) より南へ徒歩約10分
阪神：福島駅より南へ徒歩約10分
[バス]
大阪シティバス：JR大阪駅前より53号・75号系統で「田蓑橋」下車、南西へ徒歩約2分
＊お帰りのJR大阪駅方面への便利なバス停は「渡辺橋」です。
[駐車場]
有料駐車場あり (割引サービスはございません。)
＊詳細は大阪中之島美術館公式ホームページをご覧ください。

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島4-3-1

お問い合わせ

大阪市総合コールセンター (なにわコール) 06-4301-7285 受付時間 8:00–21:00 (年中無休)

本展公式サイト

〈展覧会公式サイト〉 https://nakka-art.jp/exhibition-post/sayonara-2026/

さよなら、美術館。

驚異の部屋の私たち、消滅せよ。

― 森村泰昌・ヤノベケンジ・やなぎみわ ―

Enfants Terribles, Premonitions of Oblivion
Morimura Yasumasa, Yanobe Kenji, Yanagi Miwa

2026.4.25[土]-7.20[月・祝]

開場時間　10:00-17:00 (入場は16:30まで)
休 館 日　月曜日 ＊4/27(月)、5/4(月・祝)、7/20(月・祝)は開館
会　場　大阪中之島美術館 5階展示室

主催：大阪中之島美術館、読売新聞社
協力：亞洲大學 現代美術館、一色事務所、一般財団法人 おおさか創造千島財団、京都芸術大学 ウルトラファクトリー、NPO法人 DANCE BOX、千島土地株式会社、財團法人東和綢繆文化基金會、非画廊、一般社団法人MIWA YANAGI OFFICE、モリムラ@ミュージアム、一般財団法人ヤノベケンジ財団、公益財団法人山本能楽堂
助成：一般財団法人 安藤忠雄文化財団、公益財団法人 小笠原敏晶記念財団

大阪中之島美術館
NAKANOSHIMA MUSEUM OF ART, OSAKA

森村泰昌・ヤノベケンジ・やなぎみわ

なぜこの3人!?

森村泰昌、ヤノベケンジ、やなぎみわが大阪中之島美術館に集結！国際的に活動しつつ時に交錯してきた彼らが、2026年、万博のポストイヤーに再び邂逅します。なぜこの3人が集まるのか。そのタイトルは何を意味するのか。さらには、「消滅せよ。」という言葉の先には何があるのか。多数の新作で構成される本展は、同時に作家それぞれのこれまでの活動が凝縮された「驚異の部屋」となります。ときに協働し、ときに衝突しながら、絶対的に孤独な表現者として個々の作品世界を美術館という舞台でぶつけ合います。

〈森村泰昌コラム〉
「驚異の部屋の私たち、消滅せよ。」は、なぜこの3人なのか
コチラで公開中!

PROLOGUE〈プロローグ〉

本展覧会は超高速の彫刻、自己像の造形、旗の彫刻が同時に立ち現れる場面から始まります。3人の表現が衝突する導入部となります。

ROOM1〈ヤノベケンジの部屋〉

博覧会は子供の領分

第1室はヤノベケンジによる「博覧会は子供の領分」。大阪万博跡地での原体験を起点に、新旧作品が驚異の部屋のように集積されます。未来の作家と作品が時空を横断し、子供の想像力を解き放つ創造エネルギーを体感できる、博覧会的想像力に触れていただきます。

Kenji Yanobe

ヤノベケンジ

1965年、大阪府生まれ茨木市育ち。1990年代初頭より、「現代社会におけるサヴァイヴァル」をテーマに機能性を持つ大型機械彫刻を制作。ユーモラスな形態に社会的メッセージを込めた作品群は国内外から評価が高い。2017年、「船乗り猫」をモチーフにした、旅の守り神《SHIP'S CAT》シリーズを制作開始。2022年に開館した大阪中之島美術館のシンボルとして《SHIP'S CAT(Muse)》(2021)が恒久設置される。

図ヤノベケンジ《The Spaceship of SHIP'S CAT》2025年
撮影:Omote Nobutada　ピクセルアート:BAN8KU / thePIXEL
図ヤノベケンジ《稲妻絵画》(イメージ図) 2026年

ROOM3〈やなぎみわの部屋〉

坂道のオード(賛歌)

第3室では、やなぎみわによる「黄泉平坂」の世界を紹介します。福島の桃果樹園を、毎夏10年間撮影した写真作品「女神と男神が桃の樹の下で別れる」、火、土、鐵、水などを産んだ女神をテーマにした鋳造作品、新作映像をテーマにした鋳造作品、新作映像のほかに、5月28日29日30日には、舞台公演「黄泉平坂〜排斥と遊戯〜」も上演予定です。古事記を新訳する作家の表現に触れてください。

ROOM4〈3人の部屋〉

迷宮を紡ぐ厳粛な綱渡り

第4室では3人の作家が再び集結。各作家がいま最も関心のある内容から制作された、最新作を紹介します。

Yasumasa Morimura

森村泰昌

1951年、大阪市生まれ。大阪市在住。1985年に初めてのセルフポートレイトの作品《肖像／ゴッホ》を発表する。以降、「わたし」という一貫したテーマのもと、「なにものかに扮するセルフポートレイト写真」を発表し続けている。その制作は、モチーフとなる人物／作品について、念密なリサーチとジオラマ、スタジオセットの作成、コスチュームやメイクなどの過程を経るものであり、独自の視点から対象に迫ることによって、作品が完成する。また、映像、パフォーマンス、執筆など多岐にわたる活動を行なっている。

ROOM1

ROOM2〈森村泰昌の部屋〉

広場にパノラマ絵画奇譚

第2室では森村泰昌の新作《M式・大阪八景》を紹介します。大阪にちなんだ8つの場所で撮影したモリムラ作品を、昭和文化を象徴する映画看板の絵師とのコラボレーションで看板化！本展のための特別なシリーズです。展示作品にまつわる森村自身の「語り」(音声メッセージ)を聴くことによって、観客は見知らぬ街を見物して回るような気分へと誘われます。

図森村泰昌《M式・大阪八景／通天閣の前でバルドーもどき》2026年
図森村泰昌《M式・大阪八景／旧陸軍第四師団庁で、清聴よせ！》(部分)2026年

ROOM5〈消滅美術館〉

絶望するな。では、失敬。

まったく予想だにしない展示室における「消滅」。何が消滅するのか。なぜこの3人なのか。本展の核心を現場でご覧ください。

EPILOGUE〈エピローグ〉

本展までの2年間の記録から、映像作家の林勇気が「驚異」のドキュメンタリー映像を制作。エピローグとして上映します。

図やなぎみわ《Juggling with Peaches Ⅰ》2024年 撮影:守屋友樹
図やなぎみわ《「女神と男神が桃の木の下で別れる」川中島 Ⅱ》2016年

Miwa Yanagi

やなぎみわ

神戸市生まれ。女性をテーマにした写真作品で個展多数。2009年ヴェネチア・ビエンナーレ日本館で個展。2010年より舞台作品を創作し「1924 三部作」を美術館と劇場で上演。「ゼロアワー 東京ローズ最後のテープ」で北米ツアー。台湾製の特殊車両による野外巡礼劇「日輪の翼」(原案・中上健次)を開始。2019年、個展「神話機械」で機械と演者が共演する「MM」を上演。21年には日台共同制作で台湾オペラの演出も手掛けた。2025年は六甲ミーツ・アートにて水上劇「大姥百合」、BENTEN Art Nightの歌舞伎可能舞台にて「黄泉平坂 排斥と遊戯」を上演。